

最終号

今月の十人+1

亀田巧

鳳凰原岬

鳥さんの瞼

深山睦美

きんかく

彩結ゆあ

鈴木智花

森屋たもん

武井窓花

全美

ただのたなか

発行人 鳳凰原岬
二〇一五年十一月 発行

納豆のパックの蓋の矢印に従つている仕方ない朝

旧友に似ている人と勘違いして旧友を無視した駅前

俺以外みんな降り口まちがえて振り向いたとき生まれる微風

高架から見下ろしていたこの道をぶらつきながら見上げる高架

行つたのに「行ってみたい」で保存したままのGoogleマップの花屋
気になっていた雑貨屋が閉まって向かいのブックオフに向かつた
ちよつとした段差みたいな階段の脇の傾斜を選んで下る

光線のような西日を受け「これはニシビームだ」と考える葦

交番をいい人そうに眺めつついい人そうな歩幅で過ぎる
かつこよく方向指示器ひからせてファミリーカーがゆっくり事故る

人魚賞
受賞作

行ってみたい 龜田巧

でもいつか別れるときに繰り返し見る映画だと思つて見ていました

首のない大中小のマネキンが並んでいても家族とわかる

出来るだけ暗がりにおくもう一度発芽しないでほしい話題を使えないとか使えるとか人に言う世界のすべてに値段はついたうつくしい頭痛のように生きてゆく意味のことなど考えないで

コピー機の温度ほのかに生まれたらぶん壊れるまでは働く
収穫のために果実は植えられてわたしはなにも産まない機械とうめいなパックに10個ずつ全ておんなの鳥からうまれた卵

検索をすれば中古の骨壺もあつてこの世のにぎやかなこと
身体からこころを剥がすようにしてバファリンルナは少しづつ効く

わたしはなにも 鳥さんの瞼

冬彦 凤凰原岬

逆剥けを引いて舐めれば火の鳥の血も罪人の血も同じ味
将来の夢に古城と書きおりし少年時代いまは恥じいし
幾筋の涙に灼けて砂の声こぼせし喉はいつか去ぬまで
恋に身を預けて散った家もまた花占いの花の行く末
海にては息はひとえに空ならず しがらみの可視化のプロセス
わたしから兔を引いて犬を足あなたをかけた解をおしえて
死後のことだれも知らないはずだからすこしだけすこしだけ楽しみ
希望なる光を得んとするものはみな空に手を伸ばすんだなあ
胸にある分化の名残遊びつつ胎児の頃の性を探した
ゆること教わらずとも針をのむ人のませる人も冬彦

ジャパン・イズ・パック 深山睦美

真っ当たりに生きてください3回も歌を歌つてあげたのだから
スプーンを曲げる角度で観客の首もぐにやぐにや曲がつていった
自殺つてこんな色かもふわふわの私にだけは懐かない犬
悲しみを秤にかけて私には悲しむ資格なんてなかつた
外国製横綱ロボが日本製大関ロボをぶん投げている
魔法さえ使わなければ良いですよスペイ防止法防止法
ジャパン・イズ・パック・セイレキ・ナンネンノ・ジャパンニ・パック・するんでしようか
オムレツがひよこの色と似てるのは何か理由があるんじやないか
ゆつくりと死なせてほしい手のひらで鳥の瞼を閉じるみたいに
満月にめちゃ中指を立てられて、それを一緒に笑つてほしい

本当に秋は煙草が美味しくていつから息を止めてましたか？

おばけです 届かないのに愛情を打つては消して打つてはいる人は

体内の秋が氾濫したせいで淡くまだらに濃くなる枕

鈴虫がうるさいくらいに鳴いていて寂しくなれない夜でよかつた

疲れたら休めばいいよ柏手のようにライター2回鳴らして

また会えるみたいな顔でjasmineは咲くから泣ける時に泣きなよ

秋風に膨らむカーテン（テツテテーン）窓際の悲しみをさらつて
果てしないほどに泣いても生きていて皮膚という名の臓器が乾く
魂の季節だったねニーチェから教えてもらつた秋というのは

心臓は暗い寝室だったのにあなたが風を通してしまう

暗い寝室 きんかく

さよならを言えないひとが建設を続ける銀河鉄道ぬくもり

欲しがりで花鳥風月ばかり詠む少女のままを望んで死にたい

無果汁のアセロラジュースにもあつた救いのための研究結果
乗ってきたひとが先に降りていくこんなことでは報わないのでね

微熱あり嬉しいこういうときにだけ生まれてくれる感性がある

そらみみも全部ほんとのことだよと季節は逃げるようによつて

約束はいつまでも有効だから傘を何本変えても祈る

死にたさはどんな形にもなれるからまずはプラネットリウムで仮眠

もう一度チャンスがあるか神に問う プラスチックの分別が下手

ちっぽけな空の彼方へ何を想うなめたけごはんと世界征服

等身大鉄道 彩結ゆあ

リカバリ 森屋たもん

マドレーヌ浸して食べるリカバリーウエアをみんなが信じてたころ

ノープロブレムTシャツのロゴ読んでくれる前提で買ったとしても
カッターを握つて部屋を出る誰かのナイキのマーク剥がしてみたい

純粹な危険サッカー少年がドリブルで行く狸穴街道

ランドセルの捨て方がよくわからない使用済みおむつ詰めたら可燃？

言つてみたかった言葉を言つてみる相手にされがち 僕バカだから

ブルースト効果どっちについていくことになつても未来はこんな

わたくしの緑の小鳥死にけり夏のをはりの或る夜のこと

碧玉の羽根の色濃くうつくしく飛ぶにつけてはいと悪しき鳥

小さく鳴き大きく吐いてそれつきりお前のからだは死んでしまつた
チピチピとさへづりときにギヤアと鳴くことをいつかは忘れてしまふ

埋めなくては埋めなくてはと思ひつつまだ冷凍庫に眠れる小鳥

緑の小鳥 鈴木智花

岬を発つ 全美

お魚が五匹ならんで光つてゐる血縁が重たくぶら下がる
見られたくないものばかりわたくしという食べものにもなれないお花
脳梁をゆつくり渡るひとがいてたまには少し笑つてほしい
冗談を。これはささやかな贈り物、ほんとうよ決して忘れないで
明日は雨なんて誰が決めるのだろう裏庭に増えてゆく空き瓶
誰ひとり悲しまないでいて欲しい月の裏側を撫でている
偽物の床の手ざわり少しだけ熱を分けてやつてから立ち上がる
明日までに荷造りはすませておいてとても揺れやすい汽車に乗つてゆく

全て美しさのためであつた夜毎にひかるあなたの言葉から
歯に夢が詰まつて取れない夢を見た夢占いはあてにならない
愛されてよかつたはずの人たちから愛されなかつた人生とは
騙されて泣く人なんていないから強くなれた気だけして
歩かないために作られた動く歩道で歩く人を見送る

口元にできたニキビは呪いです はやくキスして解いてください
正直に言えばきっと傷つける印をつけたからもういいよ
海牛のようなきみの唇がみょうに恋しくなつて十月

苦しさがあなたのものになつたとき柔らかくなる時間のベッド
いらないと言わてもいいそろそろ岬を発つ時間手を振り合ふ

smile 武井窓花

お魚が五匹ならんで光つてゐる血縁が重たくぶら下がる

見られたくないものばかりわたくしという食べものにもなれないお花

脳梁をゆつくり渡るひとがいてたまには少し笑つてほしい

冗談を。これはささやかな贈り物、ほんとうよ決して忘れないで

明日は雨なんて誰が決めるのだろう裏庭に増えてゆく空き瓶

誰ひとり悲しまないでいて欲しい月の裏側を撫でている

偽物の床の手ざわり少しだけ熱を分けてやつてから立ち上がる

明日までに荷造りはすませておいてとても揺れやすい汽車に乗つてゆく

渋谷では誰かがずっと生配信生きてることを証明してゐる

努力より要領の良さが評価されそれっぽい顔で愛されている

真実はいつも重すぎてポケットに入るくらいの嘘を選んだ

一駅分歩いて節約するくせにUberの配達が通知に並ぶ

半額のシールが貼られてなお残る選ばれなさに値札はなくて

カニカマはきっと海の夢を見ない着色料にまみれたキスを

X account

| | |
|--------|------------------|
| 亀田巧 | @kamedatakumi |
| 鳳凰原岬 | @2000misaki0323 |
| 鳥さんの臉 | @withoutSSRI |
| 深山睦美 | @57577_77575 |
| きんかく | @kingkaku_tanka_ |
| 彩結ゆあ | @iromusubi_yua |
| 鈴木智花 | @suzukitomoka106 |
| 森屋たもん | @monsontanka |
| 武井窓花 | @tanka_madoka |
| 全美 | @ZENMIN15 |
| ただのたなか | @Shironopa_ka_ |

デザイン・編集
はるかぜ @spring_bird_gr



月の裏側のカニカマ ただのたなか

コンビニの照明のなか生きていて月の裏ではカニが泣いてる
消費期限昨日できれた卵割る消費できない言葉ばかりで

それっぽい生を謳歌するスーパー・マーケットに並ぶ偽物たちよ
隣人の洗う食器の音だけがリアルに響く缶を漬す

渋谷では誰かがずっと生配信生きてることを証明してゐる

努力より要領の良さが評価されそれっぽい顔で愛されている

真実はいつも重すぎてポケットに入るくらいの嘘を選んだ

一駅分歩いて節約するくせにUberの配達が通知に並ぶ

半額のシールが貼られてなお残る選ばれなさに値札はなくて

カニカマはきっと海の夢を見ない着色料にまみれたキスを